

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<ul style="list-style-type: none"> ・OJTや校内研修を通して、授業をデザインする8つの取組を踏まえた指導の充実を図り、基礎・基本となる学力を身に付けさせる。 ・対話的活動を充実させることにより、考えを広げたり、深めたりすることで、表現力を養う。 ・ICT推進チームを組織し、ICTを活用した指導を充実させ、「対話」「協働」「探究」を軸に置いた創造的な「課題発見力・解決力」や「情報活用能力」を伸ばす授業を推進していく。 ・chromebookの活用場面を意図的・計画的に設定し、児童が主体的に活用することで学習内容の理解を深めることができるようにする。 ・専科が中心となり、HRT及びALT、MEPSと連携した指導の充実を図り、英語によるコミュニケーションの積極的に図る態度や能力を育成する。

授業改善の重点
<ul style="list-style-type: none"> ①児童の知的好奇心や考えを引き出す発問、児童の思考に働きかける発問や本時のねらいを達成する発問をし、児童が課題を追究することにつなげていく。(発問の工夫) ②児童の考えを共有し、児童が考えを広げたり、学習内容の理解を深めたり、課題を解決したりすることにつなげていく。(価値ある対話の共有) ③児童が自分の言葉で本時のめあてや学習内容を振り返り、単元のゴールや次時への見通しをもてるようにする。(振り返りの設定) ④大型提示装置やタブレット端末を活用し、授業における学習でより学びを深めることにつなげていく。(ICT機器の活用) <p style="text-align: right;">※ICT機器の活用は、学校全体で取り組んでいく。</p>

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の興味・関心や自分の考えを引き出す発問を工夫する。 ○話をよく聞く力を育てながら、児童が考えを共有し、広げたり深めたりする場を意図的に設定していく。 ○その後の学習に生かせるような振り返りの場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽を聴いて感じたことと気付いたことを整理して発問することで、曲想と音楽を形づくっている要素や音楽の構造との関わりなどを理解し、歌唱、器楽、音楽づくりに活かす。 ○楽曲に対する思いや意図を、言葉・演奏・身体表現等、様々な手段で表出させ、曲や演奏の良さや価値を共有できるようにする。 ○教材ごとの振り返りの設定によって学びの認知を促し、題材を通した学びのつながりを深め、次の学習に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○探求したい課題を設定し、見通しをもって学習を進められるような発問を設定する。 ○探究的な学習過程において対話的な活動の位置付けを明確にし、他者と協働して課題を解決する。 ○探求課題における本時のめあてや学習内容を振り返り、次時に向けた見通しをもつようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材を吟味し、指導する価値項目に児童が興味・関心をもつことができる発問になるよう考える。 ○友達の発言を受容的な態度で受け止めるなど話を聞く力を高めるとともに、自分の考えを進んで発表しようとする態度を育て、話し合い活動を活発に行う。 ○ワークシートを工夫し、学習した価値項目を自分のこととして振り返り、より詳しく考えることができるようにする。
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象について、自分の生活と関連付けながら学習問題を作る。 ○様々な社会的事象を自分ごとに置き換えながら考え、対話的活動を通して、見方・考え方を広げられるようにする。 ○振り返りを通して、自己の社会的な見方・考え方を深め、公民としての資質・能力の基礎を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発問の工夫を通して、学習内容の理解を図り、活動への意欲を高める。 ○さまざまな表現や考えを対話、共有することを通して、自らのつくる、見る活動に繋がれるようにする。 ○振り返りを通して、自他の表現や考えを共有し尊重し合い、次への学習に活かす。 		
	算数科	家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自己の課題等を把握し、前向きな気持ちで自己実現を図れるような場を設定する。 ○意見の違いや多様性を認め合い、折り合いを付けるなどして集団としての考えをまとめたり決めたりして合意形成を図れるようにする。 ○話し合いの振り返りとともに一連の実践の成果や課題の振り返りを行うことで、次の活動や学級生活の改善に活かすことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各Unitや毎時間ごとの目標語句や目標表現を明確にし、児童の日常生活や発達段階に応じた言語活動を設定する。 ○児童の対話の様子をよく見取り、「中間評価」を効果的に活用する。 ○児童と共に学ぶ学習、振り返りの設定を行いながら、「主体的な学び」につなげるようにする。
	理科	体育科	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の充実を図る。 ・家庭との連携を図り、放課後学習(忠三ゼミナール)及び家庭学習を充実させることにより、確かな学力を育成することにつなげていく。 ・長期休業中も含み、年間を通じて、既習事項の復習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTのより効果的な活用に向けてICT推進チームを中心とした研修を通して、指導者としてのICT活用技術を向上させる。また、何をデジタルで、何をアナログで行うのが良いのか、ICTの活用場面を意図的・計画的に設定できるようにしていく。
	生活科	外国語科(5・6年生)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携を図る ・各学年の学習内容に合わせ、ゲストティーチャーを呼ぶなどし、学習する課程の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○OJT研修の充実を図る。 若手研修、主任研修、主幹・指導教諭研修等、職層別の研修を設定し、組織的な人材育成を行っていく。また、各教科・領域等についても含めた様々なテーマについて学び合う校内研修会を定期的に設定し、教員としての資質向上を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ○指導のねらいを明確にして、そこに迫れるような発問をする。 ○それぞれ考えたこと・感じたことを大切にしながら、考え方や感じ方を交流しあい、違いに気付いたり、自分の考えを広げたり深めたりできる場を設ける。 ○学習・活動の後、良かった点・こうすればさらに良くなる点などを出し合い、次の学習につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとの目標語句や目標表現を明確にし、言語活動を通した指導に取り組む。 ○児童の対話の様子をよく見取り、「中間評価」を効果的に活用する。 ○児童と共に学習計画を考え、振り返りを行いながら、「主体的な学び」につなげるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部の研究会などに参加しやすくなる環境作りと、体制を目指す。 	

本校の授業改善に向けて	家庭学習の充実を図る。	ICTのより効果的な活用に向けて
<ul style="list-style-type: none"> ○発問の工夫 各学年の年間指導計画における位置づけ、単元や題材等の本質をつかみ、指導計画や発問の工夫につなげる。 ○価値ある対話の共有 各教科・領域等の特質をいかした対話的活動を設定し、学びを深めていくことにつなげる。 ○振り返りの設定 各教科・領域等、また、発達段階に応じた振り返りの場を設定し、主体的な学びにつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携を図る ・各学年の学習内容に合わせ、ゲストティーチャーを呼ぶなどし、学習する課程の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○OJT研修の充実を図る。 若手研修、主任研修、主幹・指導教諭研修等、職層別の研修を設定し、組織的な人材育成を行っていく。また、各教科・領域等についても含めた様々なテーマについて学び合う校内研修会を定期的に設定し、教員としての資質向上を図る。 ○外部の研究会などに参加しやすくなる環境作りと、体制を目指す。

各校の授業改善に向けて3点、設定する。
なお主な視点として授業をデザインする8つの
取組をもと主体的・対話的で深い学びの実現を
目指した授業改善を行う。